



—北アフリカ・東地中海地域ニュース—

イラク、シリア：イラク・イスラーム国がヌスラ戦線と統合

インターネット上で、「イラク・イスラーム国」の指揮官アブー・バクル・フサイニー・クラシー・バグダーディー名義の演説が出回った。この演説は、イラクにおけるアル＝カーイダを母体とした「イラク・イスラーム国」と、2011年末ごろからシリアで反体制武装闘争を担うようになった「ヌスラ戦線」を統合し、「イラクとシャームのイスラーム国」と名称を変更するとの宣言である。

この演説で注目すべき点は、「ヌスラ戦線」の指揮官や幹部は全て「イラク・イスラーム国」の一員であり、「ヌスラ戦線」の計画も、政策も、人員などの資源提供も「イラク・イスラーム国」が担っていたと公言した点にある。これにより、2012年末にアメリカが「ヌスラ戦線」を「イラク・イスラーム国」と同一の組織としてテロ組織リストに掲載した根拠が裏付けられた。「ヌスラ戦線」は、指導者や自爆攻撃実行者の顔に全てモザイクをかけるなど、殉教精神を称揚するはずのイスラーム過激派としては違和感が残る広報を行ってきた。この様な手法は、一部では「独裁政権の弾圧」をかわすためとして是認されてきたが、その実態は単に「イラク・イスラーム国」の構成員であることの隠蔽に過ぎなかったことがこの演説で明らかになった。また、「ヌスラ戦線」が「現状の解決策はヌサイリー（＝アラウィー一派に対する蔑称）とそれを支援するラーフィダ（＝シーア派の蔑称）を殺すことである」という以外の政治的・思想的主張を一切してこなかった点も、同派が「イラク・イスラーム国」の単なるフロントに過ぎないというのならば自然なことである。

また、「イラク・イスラーム国」と「ヌスラ戦線」の「統合」は、既存の国家や国境を打倒・超越しようとするイスラーム過激派の思想的特徴を実行したという点で、今後の成り行きが注目される。その一方で、シリアにおける反政府武装闘争の重要な担い手がアル＝カーイダのフランチャイズに過ぎないことを、「イラク・イスラーム国」自身が公言したことにより、アサド政権を攻撃する限りにおいてはあらゆる暴力や破壊行為を黙認し、実質的な支持・支援を与えてきた一部諸国や報道機関は、従来態度を厳しく問われることになるだろう。

イスラーム過激派モニター班